

A Journey to  
the Land of Immortals:  
Treasures of Ancient

# GREECE

PRESS RELEASE


特別展

# 古代ギリシャ

時空を超えた旅



すべての、はじまり。神話の国、ギリシャ



A Journey to  
the Land of Immortals:  
Treasures of Ancient

# GREECE

CONCEPT



## 展覧会主旨

ギリシャには古代、時代や地域によりさまざまな美術が開きました。その中心は一貫して神々と人間の姿と物語でした。大理石を削って作った小さなキュクラデス偶像、幾何学様式の壺絵からマケドニアの美しい金製品、等身大のヘレニズムの神像まで、歴史の変遷とともに見事なまでの多様性を目にすることができます。本展はギリシャ国内40か所以上の国立博物館群から厳選された300件を超える古代ギリシャの貴重な作品を展示する、日本でかつてない規模の試みです。青きエーゲ海の美しい島々からはじまるギリシャ最古のエーゲ文明からヘレニズム時代まで、西洋文化の源である古代ギリシャ文明の黎明から最盛期に至るその壮大な歴史の流れを総合的に紹介します。

## 展覧会のポイント

### 時空を超えた旅。

古代ギリシャは驚くほどに変化に富んだ世界でした。時代により、地域により、さまざまに異なった美術が開きました。今日の西欧文化の原点となった古代ギリシャ世界。その源ともいえるエーゲ海諸文明からギリシャ本土のアルカイック時代、クラシック時代、アレクサンドロス大王のマケドニア、そしてヘレニズム時代までを「時空を超えた旅」と見立てて紹介します。

### 究極に美しい。

キュクラデス文明のシンプルかつ美しく謎めいた像、クレタ島やサントリーニ島の豊かで開放的な海洋文明。幾何学様式の壺絵や人間をより自然に表現するアルカイック時代の彫刻。そしてクラシック期には「人間」を尺度の基準とした精緻なプロポーションを持つ理想美が追求されました。その後、アレクサンドロス大王がもたらしたマケドニア王国の洗練された宮廷美術は、やがて人間味に溢れるヘレニズム文化へと花開き、ギリシャの美はローマへと継承されていくのです。

### 神話は生きている。

古代ギリシャという多神教世界にもスポットを当てます。たくさんの神々がそれぞれの自然現象や領域を司っていました。ある時は人間を守護し、ある時は罰する神々に対し、人々は折々に宗教儀礼を捧げていました。そうした儀礼や死生観は、実は多神教の世界に生きる日本人にこそ理解しやすいのかもしれない。遠いようで近い、古代ギリシャの神々と人間の関わりを紹介します。

## — 第1章

# 古代ギリシャ世界のはじまり

(前7000年紀～前2000年頃)

古代ギリシャをめぐる旅は、ミノス文明よりも何千年も古い、新石器時代から始まります。紀元前7000年紀、ギリシャの人々は定住して農耕や牧畜を行うようになり、神々への祭祀や葬祭のために人の形の像をつくり、祈りを捧げました。その後、紀元前3000年近くになると、ギリシャは初期青銅器時代に入ります。エーゲ海の真ん中のキュクラデス諸島で花開いた、独特な大理石小像で知られるキュクラデス文明はとりわけ有名です。第1章では、人の形を抽象的に表す変化に富んだ小像から、ギリシャ世界の源泉を感じることができるでしょう。

じょせいぞう  
女性像

新石器時代中期～末期(前5800～前4800年)  
クレタ島、イエラペトラ、カト・ホリオ  
高14.5cm / 粘土  
イラクリオン考古学博物館蔵

新石器時代のギリシャでつくられた人の形の像は、粘土製や大理石などの石製が多いが、骨製のものもあり、多くは墓ではなく住居跡で見つっている。これは粘土製で、随所に白色を埋め込んだ刻線が引かれ、表面が磨かれている。手を腰に当て脚を組んで座る女性を表しており、胸と豊かな臀部が特徴的。魔術あるいは儀式用か。



※写真クレジットは特に記載のない場合はすべて  
©The Hellenic Ministry of Culture and Sports-  
Archaeological Receipts Fund

※各作品のキャプションは  
作品名 / 年代 / 出土 / サイズ / 材質・形式 / 所蔵の順で表記する。

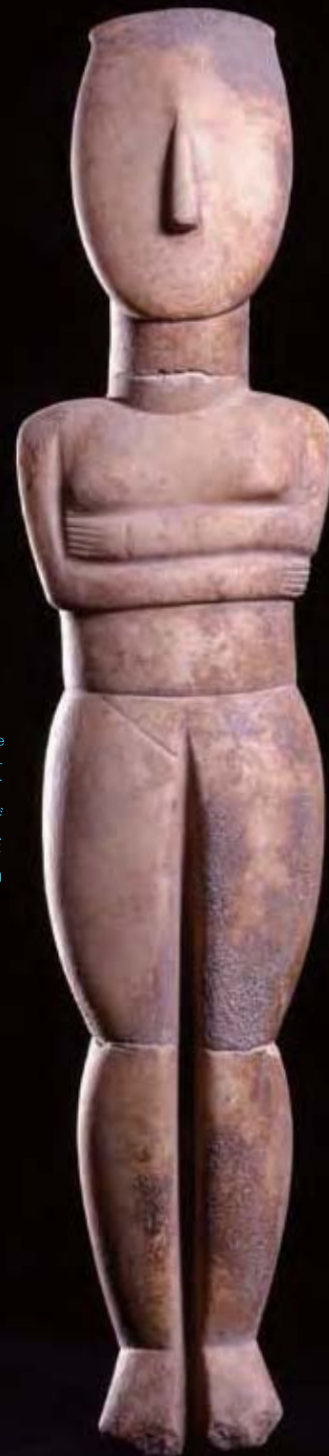
# ギリシャ 最古の エーゲ海文明。

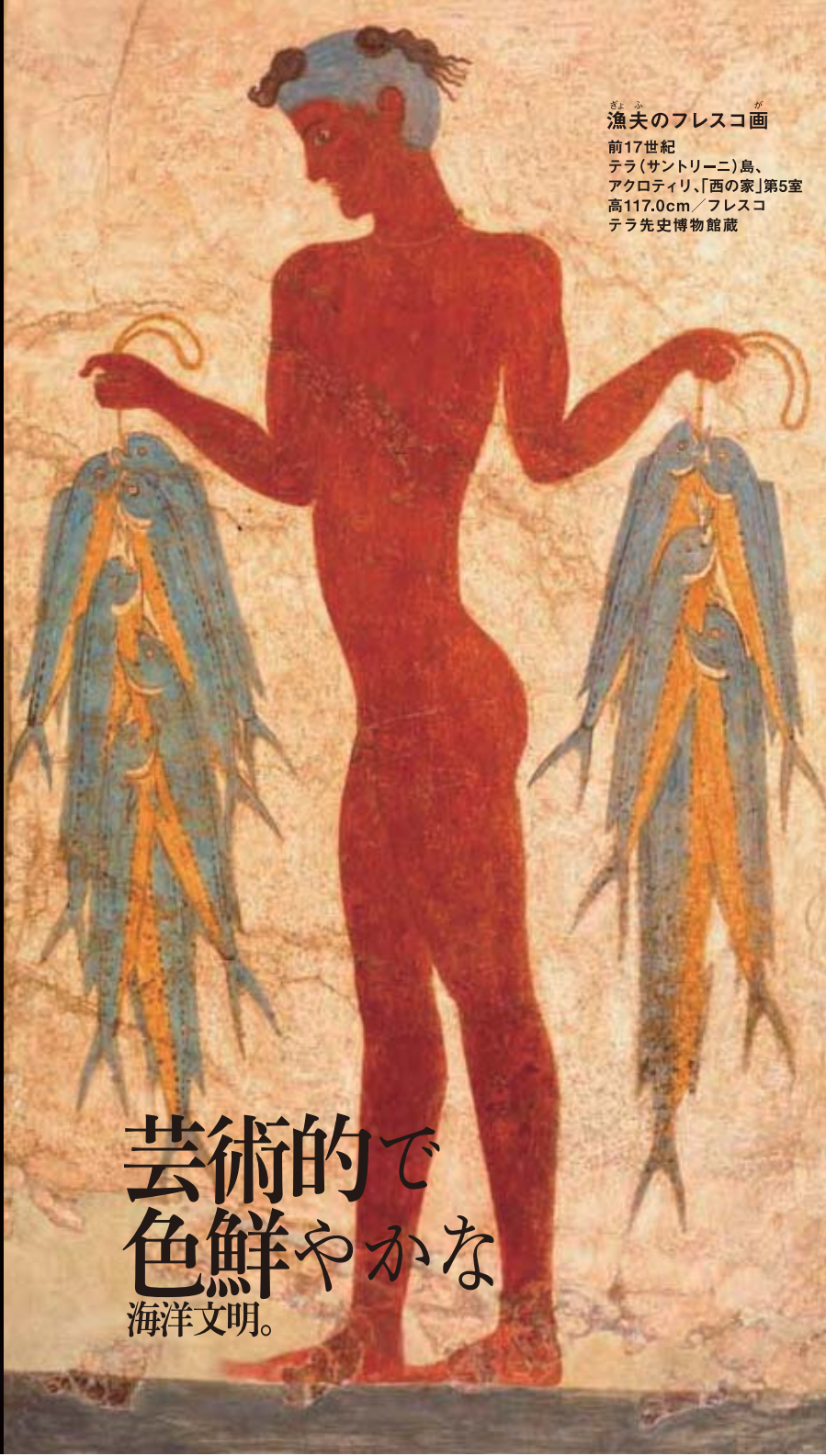
がたじょせいぞう  
スベドス型女性像

初期キュクラデスⅡ期、シュロス期(前2800～前2300年)  
クフォニシア群島か / 高74.3cm、幅16.0cm / 大理石  
キュクラデス博物館蔵

©Nicholas and Dolly Goulandris Foundation - Museum of Cycladic Art, Athens, Greece

初期青銅器時代のキュクラデスに特有の大理石小像。腕を胸の下で組み、両脚を閉じて伸ばすという典型的なポーズを取る。胸とデルタ地帯がはっきりと表されている。白いのっぺらぼうが印象的だが、当初は目や口や髪が顔料で描かれていた。この女性像は75cm近くという、キュクラデス小像としては例外的な大きさを誇る。





ぎょぶのフレスコ画  
前17世紀  
テラ(サントリーニ)島、  
アクロティリ、「西の家」第5室  
高117.0cm/フレスコ  
テラ先史博物館蔵

たくさんの魚を両手にぶら下げる若者が、大きく生き生きと描かれている。彼は単なる漁師ではなく、神に豊漁を感謝するために捧げものを持ってきた少年なのだろう。この絵が描かれてしばらくした頃、テラ島の火山は大爆発を起こし、アクロティリは灰に埋もれた。そのお陰でこうしたフレスコ画が現在にまで伝わったのである。



カマレス式  
クレタ島の洞窟神域  
嘴形注口水差し  
古宮殿時代  
(前1750～前1700年)  
フェストス  
高27.5cm/土器  
イラクリオン考古学博物館蔵

カマレス式は中期ミノス時代を代表する土器で、クレタ島中部のフェストス宮殿に近いカマレスの洞窟神域で最初の例が見つかったためにこの名がある。黒色の地に色鮮やかな白や赤、紫、黄色などの顔料で植物や海のモチーフなどが描かれる。洗練された器形や美しい曲線は、熟達した職人の技を感じさせる。

ぎゅうとうがた  
牛頭形リュトン

新宮殿時代後期(前1450年頃)/クレタ島、ザクロス宮殿  
高25.5cm/緑泥石/イラクリオン考古学博物館蔵

黒い緑泥石を彫りぬいてつくられており、牛の毛並みや斑点模様が、浮彫りや毛彫りで丁寧に彫られている。クノッソスの小宮殿で出土した類例と同じように、おそらくこのリュトンにも首の上と顎の部分に小穴があり、顎から液体が流れ出るようにつくられていたのだろう。宴会用の酒杯というよりは、宗教儀式用の祭具だろう。



かいようようしき ぶどうしゅがめ  
海洋様式の葡萄酒壺  
新宮殿時代後期(前1450年頃)  
クレタ島、クノッソス/高53.8cm/土器  
イラクリオン考古学博物館蔵

マリン・スタイル(海洋様式)は後期ミノス時代を代表する土器様式で、器面いっぱいに表された蛸、魚、イルカ、海藻などのモチーフを特徴とする。海と結びついた生活を送っていた彼らにとって、蛸は身近な動物だったのである。(P7. ミュケナイ文明《鏡壺》を参照)

## — 第2章

## ミノス文明

(前3000年頃～前1100年頃)

エーゲ海の南に浮かぶクレタ島に花開いた開放的な海洋文明は、伝説のミノス王の名前をとってミノス文明、あるいはクレタ文明と呼ばれています。紀元前2000年紀初頭にクノッソスなどクレタ島各地に建設された宮殿は、政治だけでなく、宗教、経済、手工業の中心でした。聖なるモチーフである牡牛や双斧を表した祭具や、海のモチーフで装飾された土器、繊細で美しい装身具に加えて、大噴火で埋もれたテラ(サントリーニ)島アクロティリ遺跡で出土した色鮮やかなフレスコ画が、当時の美術や工芸技術の素晴らしさを伝えます。

芸術的で  
色鮮やかな  
海洋文明。

## — 第3章

# ミュケナイ文明

(前1600年頃～前1100年頃)

ギリシャ本土のミュケナイ(ミケーネ)を中心とするミュケナイ文明は、次第に力を増し、紀元前1450年頃にはクレタ島を征服します。その美術はミノス文明の影響を受けていますが、都市はクレタの宮殿とは異なり、ホメロスの『イリアス』にうたわれるような堅牢な城壁に守られていました。権力者は優れた戦士であることを誇り、死後は立派な武具や黄金の装身具で飾られて埋葬されました。本展では、今から140年前の1876年に、ハインリヒ・シュリーマンによってミュケナイの円形墓域Aと呼ばれる王家の墓で発掘された黄金製品も出品されます。



あみかづぼ  
**鍔壺**  
前1200～前1100年  
アッティカ地方、ホルト・ラフティ、ペラティ墓地  
高24.5cm / 土器  
ブラウロン考古学博物館蔵

器面に描かれているのは、およそ蛸なこらしからぬ姿に変容してしまった蛸の文様。ミュケナイ美術がいかにミノス美術(《海洋様式の葡萄酒壺》を参照)の影響を受けているかを示すと同時に、ミュケナイ人が実際の蛸なこにいかにも無縁であったかを示しているようで興味深い。



せんし ぞうげうきぼ  
**戦士の象牙浮彫り**  
前1350～前1250年 / デロス島、アルテミス神域  
縦11.8cm 横6.0cm / 象牙  
デロス考古学博物館蔵

かぶ  
猪の兜をかぶり、8の字の盾を持った戦士が浮彫りされている。ギリシャ最古の文学であるホメロスの『イリアス』(紀元前8世紀)は、ミュケナイ時代から何百年も語り継がれてきたトロイア戦争を詩文にして詠ったものだが、ここでは英雄オデュッセウスが猪の牙の兜をかぶり、まさにこの浮彫りのような姿で登場する。

えん けい かざ しち  
**円形飾り板**

後期ヘラティック時代I期(前16世紀) / ミュケナイ、円形墓域A、第3号墓  
径2.5～6.8cm / 金 / アテネ国立考古学博物館蔵

ハインリヒ・シュリーマンはトロイアに続き、1876年にミュケナイを発掘した。円形墓域Aと呼ばれる王家の墓で、彼は《アガメムノンの黄金のマスク》(実際にはアガメムノンより早い時代のもの)とともに数々の黄金製品を発見した。黄金の輝きは、ホメロスの『イリアス』に詠われた「黄金のミュケナイ」を彷彿とさせる。



富の象徴  
権力者の誇り。



理想の  
身体美へ。  
**目覚め**



**クーロス像**

アルカイック時代  
ボイオティア地方、プトイオン山のアポロン神域  
高160.0cm / 大理石  
アテネ国立考古学博物館蔵

アルカイック時代の男性裸体立像をクーロスと呼ぶ。女性像にオリエントの影響が濃いのにに対し、クーロスが両手を腿につけて直立し、片足を前に踏み出すポーズを取るの、明らかにエジプトの影響である。この作品はアルカイック後期のもので、筋肉表現に自然さが増し、両腕も腿から離れて、動きと力強さが加わっている。



**コレー像**

前530年頃  
アテネ、アクロポリス  
高95.4cm / 大理石  
アクロポリス博物館蔵

アルカイック時代の女性着衣立像をコレーと呼ぶ。彫刻技法の発達とともに、紀元前7世紀末にはギリシャで大理石彫刻が始まった。このコレー像はキトンと呼ばれる衣の上に薄いマントをまとい、右手で衣の裾をつまんでいる。マントの縁には彩色の痕跡が残る。細かく波打つ髪や上衣の美しい衣文に、彫刻家の技術の高さが窺える。



**アッティカ幾何学様式アンフォラ**

前850～前800年  
アテネ、ケラメイコス墓地 / 高82.0cm / 陶器  
アテネ国立考古学博物館蔵

ギリシャ文明黎明期の幾何学様式時代の大型陶器。この時代の陶器には時代名の通り、メアンダー文を始め、同心円やジグザグ文といった幾何学文が緻密に描かれている。アンフォラと呼ばれる二把手の壺は、本来は貯蔵用だが、このように大型のものは墓標として墓の上に置かれた。



**フィブラ(留め具)**

前660年頃  
スパルタ、アルテミス・オルティア神域  
高8.0cm 幅5.5cm / 骨  
アテネ国立考古学博物館蔵

スパルタのアルテミス・オルティア神域では、東方化様式時代にさかのぼる象牙や骨の奉納品が多数見つかった。この浮彫りの女神が両肩に鳥を載せ、両手で鳥の首をつかんでいるのは、動植物や子どもたちの生育の守護神としての姿を表したものの。この神域は、スパルタの若者たちの宗教教育の場でもあったのである。

— 第4章  
**幾何学様式～  
アルカイック  
時代**

(前900年頃～前480年)

ミュケナイ文明崩壊後、長い暗黒時代を経て、紀元前1000年紀に入るとギリシャ世界は徐々に長い眠りから目覚めてゆきます。これが幾何学様式時代です。紀元前8世紀にはギリシャ各地でポリス(都市国家)が生まれ、ギリシャ文字もつくられました。続く紀元前7世紀の東方化様式時代には、幾何学文はオリエント由来の動物や植物のモチーフに変わり、神々や人間の表現も急増します。そして同世紀末から紀元前6世紀のアルカイック時代には、ついに等身大の大理石彫刻が登場します。えも言われぬ魅惑的な「アルカイック・スマイル」をご覧ください。

## — 第5章 クラシック時代

(前480年～前323年)

紀元前508年にアテネは民主政を確立し、2度のペルシャ軍の撃退の後、クラシック時代に入ります。アテネのアクロポリスにはパルテノン神殿が建設され、演劇や哲学が盛んになり、後の西洋美術に大きな影響を与えるような彫刻・絵画表現が生み出されました。人間の理想美を具現化した美術作品のほか、オストラキスモス(陶片追放)の名が刻まれた陶片や、公職者を公平に選ぶくじ引きの道具が、民主政を証言します。また人々が神々にどのように祈りを捧げたのか、アポロン、アルテミス、デメテルとコレー、さらにアスクレピオスの信仰にもスポットを当てます。

### テミストクレスの名前が 書かれたオストラコン(陶片)

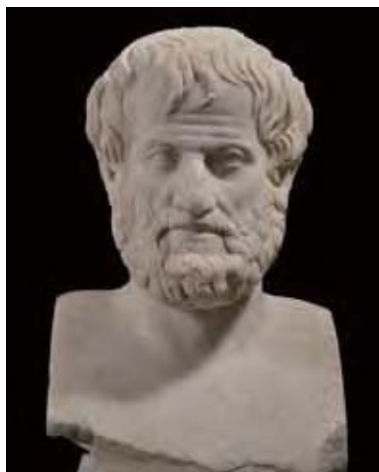
- ◎アテネ考古学監督局
- ◎前472年
- ◎アテネ、アゴラ
- ◎陶器◎高6.5cm、幅13.8cm

紀元前510年、アテネは僭主政を排し、民主政に移行していく。再び僭主が生まれまいと彼らが導入したのが、陶片追放である。僭主となる恐れがある者の名を陶片に書いて投票し、6千票に達すると、1名が10年間アテネ外への追放となる。この陶片には、紀元前472年に陶片追放となったテミストクレスの名が書かれている。

### アリストテレス像

- ◎アクロポリス博物館
- ◎1世紀末期
- ◎アテネ、アクロポリス博物館敷地
- ◎大理石◎高45.5cm

哲学者アリストテレスはプラトンの弟子で、アレクサンドロス大王の家庭教師でもあった。紀元前335年にはアテナイに学園リュケイオンを創立している。アテネのアゴラ(広場)には、大王が立てたアリストテレスの肖像があったことが知られている。ただしこの胸像はローマ時代のコピーで、新アクロポリス博物館の工事中に出土した。



### 奉納浮彫り アポロン、アルテミス、レット

- ◎アテネ国立考古学博物館
- ◎前5世紀後期
- ◎アテネ
- ◎大理石◎高70.0cm、幅69.0cm

アポロンが鼎に座り、両脇に姉のアルテミスと母親のレットが立っている。アポロンは「デルフォイの神託」で有名で、そのアポロン神殿にはギリシャ中から人々が折に触れて神託を伺いに訪れた。神殿の奥では巫女がこの浮彫りのような鼎の上に坐って憑依状態となり、神官が伝える問いに対して神の言葉を告げたという。



# 美の起源 神々への祈り。

### アッティカ赤像式尊型クラテル

ディオニュソスとアリアドネ、ポセイドンとアミュモネ

- ◎アテネ国立考古学博物館
- ◎前390～前380年
- ◎出土地不明
- ◎陶器◎高27.5-27.9cm、口径27.1-27.3cm、底径13.0cm

2つの面に2つの神話がそれぞれ描かれている。片面は酒神ディオニュソスとアリアドネ、逆面は海神ポセイドンとアミュモネ。アリアドネの肌や衣には、白い彩色が施されていた。どちらも危機的状況に陥った人間の娘が神に救われ、結ばれるという物語である。この大振りな器は葡萄酒と水を混ぜるために用いられた。

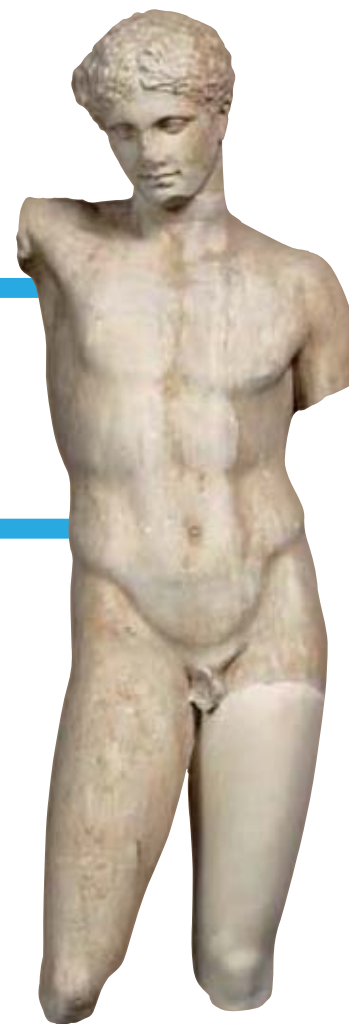


## — 第6章 古代オリンピック

紀元前8世紀、オリンピアのゼウス神域で4年に一度の競技祭が始まりました。最初は徒競走だけでしたが、5種競技(徒競走、円盤投げ、槍投げ、走り幅跳び、レスリング)や総合格闘技、競馬や戦車競走など、次第に競技の数も増え、全ギリシャから選手が集う大競技祭に発展しました。優勝者はこの上ない名誉を得、その彫像が神域に奉納されました。展覧会では競技種目を陶器画などでご紹介するとともに、競技者像が優勝者たちの姿を、神域に奉納された競技道具が優勝者たちの思いを伝えます。

### オリンピック発祥の地から 2020年オリンピック開催地・東京へ

本年(2016年)は1836年に  
最初の近代オリンピックがギリシャで  
開催されてから120年にあたります。



競技者像  
◎アテネ国立考古学博物館  
◎前2世紀後半  
◎エレウシス  
◎大理石◎高105.0cm

古代オリンピックでは、各種目の優勝者はオリヴの冠とこの上ない名誉を手に入れ、その姿は銅像として神域に奉納された。この大理石像はクラシック時代の有名な競技者像に基づいた、ヘレニズム時代の自由闊達なコピーである。少年は上げた右手におそらく優勝者の冠を持ち、自分の頭に載せるところなのだろう。



円盤投げ小像  
◎アテネ国立考古学博物館◎前500年頃  
◎テバイ、カペイロイ神域◎青銅◎高18.0cm

円盤投げは単独ではなく、5種競技の中のひとつとして競われた(ほかは走り幅跳び、槍投げ、徒競走、レスリング)。円盤はふつう青銅製で、5~6キログラムほどの重さだった。この小像は、投擲前に円盤を持って振りかぶった瞬間を表している。

### アッティカ黒像式ピュクシス 戦車競走

◎アテネ国立考古学博物館◎前500年頃  
◎出土地不明◎陶器◎高8.3cm

戦車競走は、古代オリンピックでは紀元前680年に始まった。御者は二輪戦車に乗り、馬を操る。ヒッポドロモスとよばれる縦長の競馬場は直線コースを往復する形で、転回点は最も御者の腕が試されるところだった。このピュクシス(小物入れ)にはまさにその転回点で事故を起こし、地面に投げ出された御者が描かれている(写真右端)。

## オリンピックの 原点。



### 赤像式バナテナイア 小型アンフォラ ボクシング

◎アテネ国立考古学博物館◎前500年頃  
◎アイギナ島◎陶器◎高19.0~19.3cm

古代ギリシャのボクシングは拳に革ひもを巻き付け、どちらかが倒れるか降参するまで殴り合う。抱え込み、蹴り、急所へのパンチは禁止されていた。試合に時間制限はなく、決着がつかない時は、防御せずに交互に顔を殴り合い、長く耐えた方が勝者になったという。バナテナイア型アンフォラはアテネの競技祭での優勝者への賞品だが、これはそれを模した小型版。



## — 第7章 マケドニア王国

旧来のギリシャ世界とは異なり、ギリシャ北方のマケドニアは金を豊富に産出しました。マケドニア王国が成立する以前から、権力者の墓にはたくさんの黄金の品々が副葬されました。展覧会には、新石器時代というひじょうに古いものから、紀元前4世紀末のアレクサンドロス時代、さらにヘレニズム時代の墓に至るまでの、まばゆいばかりの冠や宝飾品が展示されます。またアテネのアクロポリスで発見されたアレクサンドロスの肖像は彼の生前に、それもおそらく20歳前後に彫られたもので、世界で唯一のたいへん貴重な作品です。

### アレクサンドロス<sup>とうぶ</sup> 頭部

- ◎アクロポリス博物館
- ◎前340～前330年
- ◎アテネ、アクロポリス
- ◎大理石 ◎高35.0cm

フィリッポス2世は紀元前338年にギリシャ連合軍を破った後、オリンピアに円堂を建てて自分の家族の肖像を奉納した。一方アテネ人たちは、王の機嫌を取ろうと、彼と息子のアレクサンドロスの肖像を自分たちのアゴラに立てたという。アクロポリス出土のこの肖像は、王子時代のアレクサンドロスではないかと考えられている。

### ちようかもんようあらわ<sup>かんむり</sup> 寫花文様を表したディアデマ(冠)

- ◎テッサロニキ考古学博物館
- ◎前4世紀後期
- ◎デルヴェニ墓地、B墓
- ◎金 ◎長28.5cm、高8.5cm



究極の美  
黄金の輝き。



### ギンバイカの<sup>かん</sup> 金冠

- ◎テッサロニキ考古学博物館
- ◎前4世紀末期
- ◎デルヴェニ墓地、B墓
- ◎金 ◎径20.9cm



### フィアレ

- ◎テッサロニキ考古学博物館
- ◎前4世紀後期
- ◎デルヴェニ墓地、B墓
- ◎銀 ◎径14.3cm

マケドニアのテッサロニキ近郊にあるデルヴェニ墓地では、紀元前4世紀末の墓がいくつか見ついている。このB墓はその中で最も豪華なもので、金色に輝きディオニュソスのモチーフで豪華に飾られた高さ90.5cmの青銅製の《デルヴェニのクラテル》が発見され、中には壮年の男性と、それよりも若い女性の遺骨が納められていた。ギリシャ世界では宴会は男性だけのものであるため、この墓に副葬されていた銀のフィアレ(酒杯)や銀の柄杓、青銅製の葡萄酒差しや酒杯は、男性の死者の副葬品と考えられる。一方、金冠は男女どちらの墓からも見つかるが、アフロディテの聖樹であるギンバイカの冠は女性の死者のためのものだろう。



## — 第8章 ヘレニズムと ローマ

(前323年～)

アレクサンドロス大王の死後、その後継者たちが建てた諸王国が互いに争ったヘレニズム時代に、ギリシャ美術は広い世界へと広まり、多様性を獲得しました。その中でも、驚くほどリアルな肖像彫刻と、官能的で繊細優美な女性像は特筆すべきものでしょう。紀元前31年に、女王クレオパトラがローマに敗れた後、地中海はローマの内海となります。しかし征服者であるローマ人たちは逆に、ギリシャの美術や文化の魅力に捕われました。ローマ時代の肖像彫刻やモザイクは、ギリシャ美術がその後も長く生き続けたことを教えてくれます。

## 美の 拡がり ギリシャ、 永遠の美。

### イルカに乗ったアフロディテ像

- ◎タソス考古学博物館
- ◎前2～前1世紀
- ◎タソス島、ポセイドン神域
- ◎大理石◎高35.0cm

波間を跳ねるイルカの背中に半裸の女性が横向きに乗っている。イルカの尾には、小さなエロスがしがみついている。イルカはアフロディテの聖獣であり、彼女の子の愛神エロスもいることから、彼女は海の泡から生まれたという美の女神アフロディテなのだろう。後期ヘレニズムに特徴的な、軽やかで愛らしい彫像である。



### 君主頭部

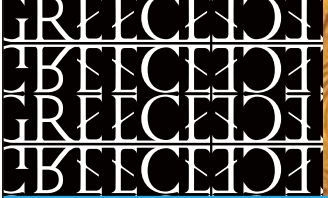
- ◎カリュムノス考古学博物館
- ◎前3～前2世紀
- ◎カリュムノス島沖
- ◎青銅◎高32.0cm

カウシアと呼ばれるマケドニアの平らな帽子をかぶった、非常にリアルな壮年男性の頭部。顔に刻まれた皺や短い鬚は、戦乱の世にあって頼りがいのある君主といった風貌である。1997年にカリュムノス島沖の海中で、漁師たちによって発見された。おそらく沈船の積み荷だったのだろう。

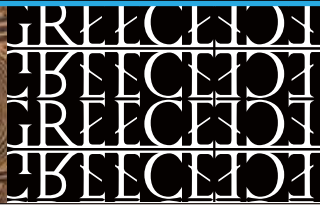
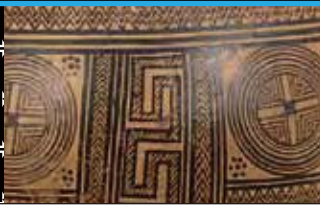
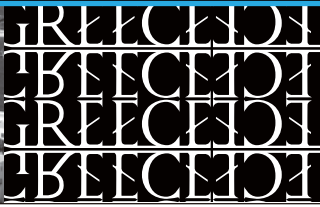
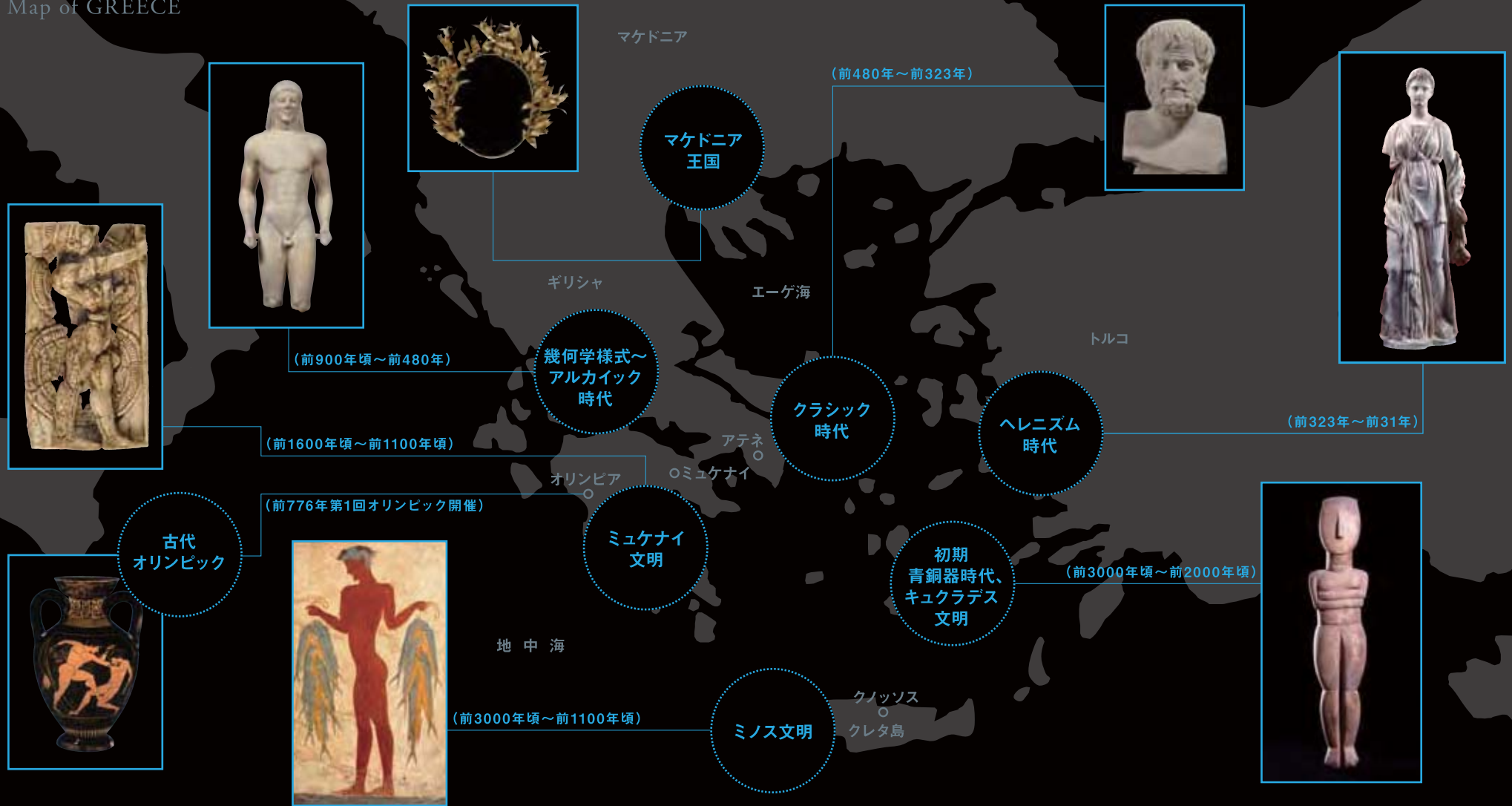
### アルテミス像

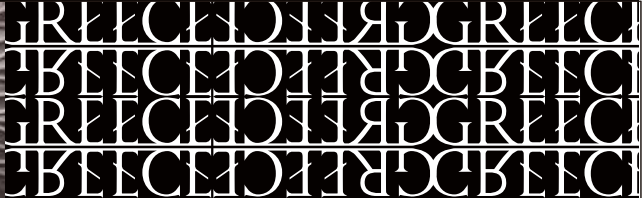
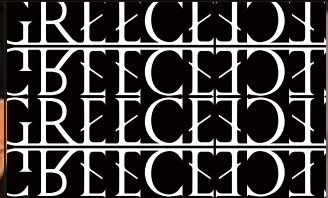
- ◎アテネ国立考古学博物館
- ◎前100年頃
- ◎デロス島
- ◎大理石◎高140.0cm

小さな頭部と長い首と細い肩、小さな胸。装飾的な編み込みの髪。矢筒の痕跡があることから狩りの女神のアルテミスだとわかるが、勇ましさや力強さはなく、ヘレニズム後期に特有の優美でなやかな女性像である。《ミロのヴィーナス》のどっしりとした体躯と雰囲気は異なるが、同じ頃に、同じキュクラデス諸島でつくられたもの。



Map of GREECE





## History of GREECE

### 新石器時代(前7000年紀～前3000年頃)

前7000年紀 ギリシャで人々が定住し、次第に農耕・牧畜が始まっていく。

### エーゲ文明(前3000年頃～前1100年頃)

前3000年頃 エーゲ海域が青銅器時代に入る。これをエーゲ文明と呼ぶ。  
(キュクラデス文明、ミノス文明、ミュケナイ文明を含む。)

### ミノス文明(前3000年頃～前1100年頃)

前2000年頃 クレタ島クノッソス、フェストス、マリアに宮殿がつくられる。古宮殿時代。  
前1700年頃 クレタ島を地震が襲う。各地の宮殿が再建され、新たな宮殿も建設される。新宮殿時代。  
前1600年頃 テラ(サントリーニ)島が噴火。アクロティリが灰に埋もれる。  
前1450年頃 クレタ島のほとんどの宮殿が崩壊。  
前1375年頃 クノッソス宮殿が崩壊。

### ミュケナイ文明(前1600年頃～前1100年頃)

前1600～前1550年頃 ミュケナイの円形墓域B、Aがつくられる。  
前1250年頃 ミュケナイの城壁が拡張、強化される。獅子門建設。  
前1200年頃 ミュケナイ文明の宮殿が次々と崩壊。  
前1100年 亜ミュケナイ時代に入る。徐々にギリシャに鉄器が普及していく。

### 幾何学様式～アルカイック時代(前900年頃～前480年)

前1050年 原幾何学様式を用いた陶器がつくられはじめる。  
前900年頃 規則的な幾何学文を用いた陶器がつくられ始める。  
前776年 オリンピアで第1回オリンピック競技会開催(伝承)。  
前750～前700年頃 ギリシャ文字が次第に普及。ホメロスの抒情詩『イリアス』『オデュッセイア』成立。  
前700年頃 ギリシャ陶器が幾何学文を離れ、東方化様式へ。  
前650年頃 大型の大理石彫刻が始まる。このあと前6世紀を通じてクーロス、コレーが発達していく。  
前600年頃 アッティカ黒像式陶器がつくられ始める。赤地に黒色で像を描く技法。  
前530年頃 アッティカ赤像式陶器がつくられ始める。背景を黒色で塗りつぶす技法。  
前510年 アテネの僭主ヒッピアスが追放される。  
前508年 クレイステネスの改革。民主政の確立。

### クラシック時代(前480年～前323年)

前490年 ベルシャ軍、アテネ近郊まで侵入。マラトンの戦いで撃退。  
前480年 ベルシャ軍がアテネを蹂躪。サラミスの海戦で撃退。  
前477年頃 デロス同盟成立。盟主アテネがギリシャの覇権を握る。  
前438年 パルテノン神殿と神像《アテナ・パルテノス》奉獻。ただし工事は前432年まで続いた。  
前431年 ペロポネソス戦争開始。ギリシャのポリスがアテネ側とスパルタ側に分かれ戦う。  
前404年 アテネが降伏、ペロポネソス戦争終結。  
前399年 哲学者・ソクラテスが自死を命じられ死す。  
前387年頃 プラトンがアテネに学園アカデメイアを開く。  
前338年 カイロネア島の戦い。アテネとテバイの連合軍、マケドニアに破れる。  
前335年 アリストテレスがアテネに学園リュケイオンを開く。

### マケドニア

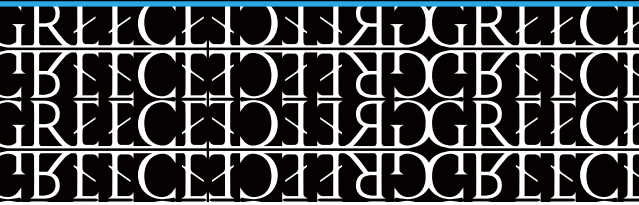
前359年 マケドニア王フィリッポス2世が即位。軍政改革により強国化。  
前336年 フィリッポス2世暗殺。アレクサンドロス大王が20歳でマケドニア王に即位。  
前334年 アレクサンドロス大王の東征開始。  
前331年 ガウガメラの戦いでアケメネス朝ベルシャのダレイオス3世を破る。  
前330年 ダレイオス3世が殺害され、アケメネス朝ベルシャ滅亡。  
前323年 アレクサンドロス大王がバビロンで病死。

### ヘレニズム時代(前323年～前31年)

前306～前305年 アレクサンドロスの後継者たち(ディアドコイ)が次々と王を名乗る。  
前238年 ベルガモンのアッタロス1世、王を名乗る。  
前168年 ビュドナの戦いでマケドニアがローマに敗れる。  
前146年 コリントスの戦い。ギリシャにおけるローマの支配力が決定的に。  
前31年 アクティウムの海戦。翌年クレオパトラ7世が自害し、プトレマイオス朝エジプト滅亡。

### ローマ時代(前31年～)

前27年 オクタウィアヌスがアウグストゥスの称号を得る。ローマ帝政開始。



特別展  
古代ギリシャ  
時空を超えた旅

東京展

会期

会場

休館日  
開館時間  
主催  
企画協力  
後援  
協賛

監修

観覧料(税込)

お問合せ

長崎展

神戸展

展覧会  
公式サイト

報道機関  
お問合せ

2016年6月21日(火)～9月19日(月・祝)

**TNM 東京国立博物館** 平成館 (上野公園) 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

月曜日 ※ただし7月18日(月・祝)、8月15日(月)、9月19日(月・祝)は開館。7月19日(火)は休館。  
午前9時30分～午後5時 ※土日・祝日は午後6時まで。金曜日および7・8月の水曜日は午後8時まで。入館は閉館の30分前まで。  
東京国立博物館、ギリシャ共和国文化・スポーツ省、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション  
東映  
外務省、駐日ギリシャ大使館  
竹中工務店、日本写真印刷、三菱商事

芳賀 京子(東北大学准教授)

一般	1600円(1400円／1300円)
大学生	1200円(1000円／900円)
高校生	900円(700円／600円)

※中学生以下無料。 ※( )内は前売／20名以上の団体料金。  
※前売券は2016年4月1日(金)から6月20日(月)まで販売。  
※特別ペアチケット一般2020円を4月限定販売予定。  
※障がい者とその介護者1名は無料(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください)。  
※チケット取扱い:東京国立博物館正門チケット売場(窓口・開館日のみ)、  
展覧会公式サイト、主要プレイガイドなど。

03-5777-8600(ハローダイヤル)  
東京国立博物館ウェブサイト <http://www.tnm.jp/>

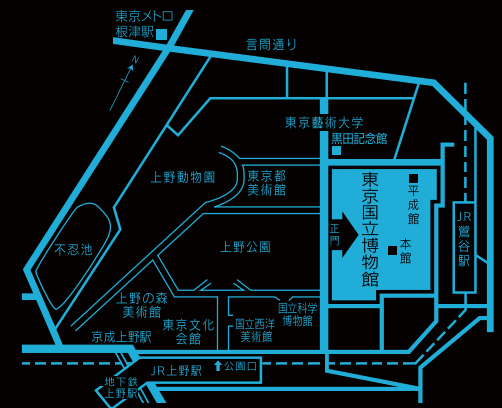
会期:2016年10月14日(金)～12月11日(日)  
会場:長崎県美術館 〒850-0862 長崎県長崎市出島町2-1

会期:2016年12月23日(金・祝)～2017年4月2日(日)  
会場:神戸市立博物館 〒650-0034 神戸市中央区京町24

<http://www.greece2016-17.jp/>

東京会場 特別展「古代ギリシャ ―時空を超えた旅―」広報事務局

〒104-8158 中央区銀座7-2-22 同和ビル6F(共同PR)  
TEL:03-3571-5228 FAX:0120-653-545 E-mail:greece-pr@kyodo-pr.co.jp



[交通案内]  
JR上野公園口、鶯谷駅南口より徒歩10分  
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、東京メトロ千代田線根津駅、  
京成電鉄京成上野駅より徒歩15分